



## 再会を喜び合い思い出話に花を咲かせる 美郷町千畑ふるさと会

7月28日、東京都内の会場で「美郷町千畑ふるさと会総会・交流会」が盛大に開催されました。町からは、松田町長、高橋議長らが来賓として出席し、会員の方々と情報交換をしながら交流を深めました。

総会では、関東圏の三つふるさとの会の統合について承認され、これをもって全てのふるさと会で統合案が承認されました。今後は、平成25年度の統合に向けた本格的な準備が進められることとなります。

総会後に行われた交流会では、恒例となったバンド演奏や道の駅による物産販売等も行われ、終始賑やかな雰囲気の中、再会を喜び合い、思い出話に花を咲かせ、楽しいひとときを過ごしました。

## 美郷から片品へ・・・水がつなぐ交流の輪 名水サミットin尾瀬かたしな

8月3日に群馬県片品村で「名水サミットin尾瀬かたしな」が開催され、美郷町からは水環境マイスターや七滝土地改良区役職員など18名が参加しました。名水サミットは、全国の「名水百選」の所在市町村からなる全国環境保全市町村連絡協議会が主催する大会で、昨年度は美郷町で開催されました。

松田町長の開会宣言で始まった名水サミットでは、日独米の高校生による自国の水環境の研究発表や、「山村と都市の絆」をテーマにしたパネルディスカッションなどが行われ、かけがえのない水環境を都市地域とともに未来へ引き継ぐための努力を重ねることを確認しました。また、協議会関係者による交流会も開催され、美郷の誇るべき水環境を全国に発信しました。



## ふれあい、驚き、感動体験 わくわくサマースクール2012

小学生に体験学習を通じて町の歴史や文化について学んでもらおうと、夏休み期間に合わせて「わくわくサマースクール」が開催されました。今年は秋田県との共催で、昨年度の地域マイスター養成講座の修了生たちが企画した遊び「美郷の清水体験！」が8月9日に天神堂清水川と藤清水で行われました。

清水川では、地域マイスターの方々の指導の下、クレソンの植え付け体験や水生生物の観察が行われ、川の中でヨコエビやサンショウウオを発見した子どもたちは興味津々の様子でした。藤清水に場所を移した後は、清水で冷やした野菜や冷やしご飯に舌鼓を打つなど、昔ながらの地域の味を堪能していました。



## あなたの農地は大丈夫？ 農地集中パトロールを行いました

8月10日に農業委員が町内の農地の集中パトロールを行いました。集中パトロールは、農業委員の農地に関する判断基準の統一を図り、今後の農地の遊休化対策等について協議するために実施しています。農地が遊休化すると雑草が生い茂り病虫害発生の原因となるなど、隣接地の耕作者に多大な迷惑をかけることとなります。遊休化した農地は簡単に復元することが難しくなりますので、農地の所有者や耕作者の方は適切な農地管理をお願いします。



## 大人の美郷探検 本堂城跡見学会

8月11日に県指定史跡「本堂城跡」で行っている発掘調査の見学会が行われ、町内外から約70名が見学に訪れました。本堂城は、美郷町北部と大仙市東部を治めていた本堂氏が天文4年（1535年）に築いた平城で、町では平成16年から発掘調査を行って、城内の調査を進めています。

見学会では、町教育委員会生涯学習課職員が城にまつわる歴史や、15世紀前半以降に建てられたと推定される掘立柱建物跡、堀を盛った土で城の周囲に築かれた土塁跡の説明などを行いました。見学に訪れた参加者たちは熱心に聞き入り、本堂城が存在していたとされる場所の説明を受けながら、ありし日の城の姿に思いを馳せている様子でした。



## 感謝の思いとさらなる飛躍を胸に 平成24年度美郷町成人式



8月15日に美郷町公民館で平成24年度美郷町成人式が行われ、平成3年4月2日から平成4年4月1日生まれの新成人224名の門出を祝いました。

式典では、3地区を代表して武藤修平さん、佐々木郁佳さん、高橋慎也さんに松田町長から成人証書が授与され、成人者代表として後藤宏佑さんが「これまで育ててくれた美郷町への感謝の気持ちを忘れず、それぞれの描く未来へ向けてこれからも精進していきます」と謝辞を述べました。

式典後には、成人式実行委員会が制作した記念映像が放映され、中学校時代の恩師からのお祝いの言葉や、新成人たちの職場や学校での様子などが紹介されました。「飛躍～未来のその先へ～」をテーマに開催された今年の成人式。美郷町が誕生した年に各中学校へ入学し、美郷中学校が誕生した年に成人の節目を迎えた皆さんは、さらなる飛躍を心に誓いながら新たな未来へと一歩を踏み出しました。

## ひとまず、安心

美郷町長 松田知己



美郷大使鼎談であいさつを述べる松田町長

先般、東京大学地震研究所を訪ねてきました。目的は、千屋断層を抱えている地として、東日本大震災後の断層由来の直下型地震について教えを乞うためです。結論から言えば、現在の理論的評価方法では、明治29年に発生したマグニチュード7規模の直下型地震が僅か百年後に発生することはあり得ないということでした。詳しく教えていただいた地震研究所の佐藤比呂志教授の前で、「あゝ良かった」

# 風

という言葉が自然に口から出ました。

先生曰く、「断層面は押し合う2つの力が合わさる所に存在しているが、今回の大地震で片方の押す力が緩み、断層面の緊張が緩んだ」とのことです。従って、千屋断層由来のM7規模の地震の発生は、一定の長い期間ほぼ心配ないということでした。また、M7規模の地震が百年周期で発生した例は世界にもないとのこと。なお、一定の長い期間とは、地震学の世界で言われている「周期の倍・半分」の期間で、地震周期の2倍から2分の1の期間を指すとのこと。千屋断層の地震周期はおよそ3千年とのことですので、6千年から1千5百年の期間を指すということになります。

ただし、緩んだおかげで断層面に垂直方向のひびは発生しやすくなり、ひび由来の地震は発生するとのこと。大震災後の頻発地震はどれもそれらしいです。また、緩んでいない所は緊張継続とのことで、東北以外で大地震の可能性があるとのことでした。従って、M7未満の地震発生には引き続き注意が必要ですし、東北以外での大地震に伴う影響にも注意が必要となります。油断は禁物ということです。ですので、引き続き町の防災体制の強化はできることを着実に積み重ねていくつもりです。ご協力お願いいたします。

今回、専門家からお話を伺うことができたのは、ひとえに美郷大使の佐々木毅先生のおかげです。佐々木先生のネットワークがなければ実現しませんでした。改めてネットワークのありがたさを実感です。私自身も、より広いネットワークを持てるように、「自分磨き」、さらに努めたいと思います。